

農業振興船津賞歴代受賞者名簿

- (1) 昭和35年度 小川 浩 太田市
水稲、肉牛等の経営改善を図り生活の安定を図る。
- (2) 昭和36年度 柿沼 憲爾 邑楽郡明和村
梨、穀作の経営改善を図り推進する。
- (3) 昭和37年度 柳沢 門弥 碓氷郡松井田町
農業経営の改善と部落振興を推進する。
- (4) 昭和38年度 生方 三七松 北群馬郡子持村
こんにゃく栽培技術及び流通改善を推進する。
- (5) 昭和39年度 見城 太平 渋川市
りんご栽培技術の改善普及を推進する。
- (6) 昭和40年度 田村 武一 前橋市
土地基盤整備事業を推進し経営の安定を図る。
- (7) 昭和41年度 石坂 満房 利根郡月夜野町
山間地養蚕の在り方を確立し推進を図る。
- (8) 昭和42年度 清水 圭太郎 吾妻郡長野原町
規模拡大を開拓に求め、高冷地農法を指導確立する。
- (9) 昭和43年度 佐藤 袈裟吉 碓氷郡松井田町
わさび田を創案し、しいたけ、なめこ、森林開発を推進し山村振興を図る。
- (10) 昭和44年度 手島 亀太郎 前橋市
河川改修を促進するとともに土地改良事業の啓発と実施を推進し地域振興を図る。
- (11) 昭和45年度 矢内 旭 藤岡市
冷床育苗方法を創案し、農事研究会、施設園芸技術研究会を設立し園芸振興の推進を図る。
- (12) 昭和46年度 神山 芳男 勢多郡黒保根村
開田及び畑地かんがい等の土地基盤整備事業を推進し、山間地域の営農形態の改善合理化を推進する。
- (13) 昭和47年度 小林 松五郎 群馬郡箕郷町
肉牛肥育組合を設立し、経営の合理化を地域に推進するとともに若い経営者の育成に努める。
- (14) 昭和48年度 古橋 久哉 邑楽郡板倉町
農業経営ならびに農家生活の改善合理化を実践し、農業研究組織の育成指導とあわせ、これを地域に普及する。

- (15) 昭和49年度 須藤 初太郎 安中市
養蚕経営の合理化を図り、これを地域に普及するとともに、国内研修生を受け入れ技術指導にあたる。
- (16) 昭和50年度 関口 島吉 佐波郡境町
集約的露地野菜経営を地域農業振興の一環として推進確立する。
- (17) 昭和51年度 関口 源弥 前橋市
いちごを地域に導入し、生産奨励を図るとともに、その生産組合の設立を推進する。
- (18) 昭和52年度 内海 文之助 利根郡月夜野町
しいたけの栽培及び森林振興として水源増殖法により振興を図る。
- (19) 昭和53年度 松浦 源一郎 甘楽郡下仁田町
しいたけの栽培技術と販売組織を確立し、下仁田葱の伝統をまもり地域振興を図る。
- (20) 昭和54年度 横尾 博次 多野郡吉井町
太陽熱を利用した片山型ビニールハウスを考案し、きゅうり栽培技術の普及、生産組織の育成に努める。
- (21) 昭和55年度 大和 鷲雄 伊勢崎市
トマトのハウス栽培を普及し、とくに団地化と共同選果場の設置推進に努める。
- (22) 昭和56年度 伊藤 良一 吾妻郡中之条町
酪農経営の合理化を図り、地域の農業振興に努める。
- (23) 昭和57年度 中村 勝 利根郡白沢村
土壌改良の推進と養蚕省力技術の普及に努め、地域の農業振興を図る。
- (24) 昭和58年度 稲葉 喜久次 館林市
湿田の乾田化を促進するとともに、土地改良事業の啓発と実施を推進し、営農集団の育成等地域振興を図る。
- (25) 昭和59年度 松本 恒文 高崎市
酪農、肉牛の振興と土地改良事業の推進をはかり、地域農業の発展に寄与する。
- (26) 昭和60年度 高橋 淳太郎 利根郡月夜野町
新品種「つがる」を発見普及に努め、りんご栽培農家の所得の増大と経営の安定、特産地化に寄与した。
- (27) 昭和61年度 藤生 良次 佐波郡赤堀町
甘藷の増収技術体系を確立するとともに、西瓜の接木技術開発に成功し、大産地形成の基礎を築いた。

- (28) 昭和62年度 清水 正雄 高崎市
改良まぶしの考案普及をはじめ、条桑育をいち早く取り入れるなど養蚕振興に寄与するとともに、酪農においては乳質の改善等経営安定のためリーダーとして活躍した。
- (29) 昭和63年度 小嶋 甲子郎 吾妻郡嬭恋村
県内産米の改良に多大な貢献を果たすとともに、花木栽培技術の研究と産地化に努めた。
- (30) 平成元年度 天田 良作 高崎市
米・麦・養蚕技術の開発と養豚の一貫経営の基礎をなし、集団組織の育成等地域農業振興の推進を図る。
- (31) 平成2年度 上原 洸 碓氷郡松井田町
こんにゃくのパイオニアとしてその指導にあたり、県有数のこんにゃく産地の基盤づくりをなすとともに、村づくりにおいても大きく貢献した。
- (32) 平成3年度 板垣 芳治 前橋市
生産組合の設立、ベツト育苗の技術を開発普及するとともに、水田転作に伴う大豆の生産と加工、販売、高付加価値農業を実践した。
- (33) 平成4年度 津久井竹太郎 桐生市
ぶどうの新品種「早伊錦」の発見と新技術を開発改良、地域に普及し、産地化を図った。
- (34) 平成5年度 中里 利男 館林市
県下に先駆けてビニールハウスを導入、地中熱交換ハウスの改良を行い、地域はもとより県内外に普及、農業後継者の育成指導、結婚相談活動を行った。
- (35) 平成6年度 小林 久豊 利根郡白沢村
山間高冷地の立地条件に着目、酪農を導入し地域に普及、県内農業者に簿記帳指導や後継者の育成を図った。
- (36) 平成7年度 高橋 信司 沼田市
早くから観光りんご経営に着目、地域のりんご生産者の組織化を進め、観光りんご隆盛の基盤を確立した。
- (37) 平成8年度 向井 高男 前橋市
「みつば」の水耕栽培のパイオニアとして、地域へ水耕栽培を普及し、作業省力化のために、「下葉」の取り除き作業の機械化を実現した。
- (38) 平成9年度 関根 磯吉 藤岡市
高級切り花シンビジウムを導入し、新技術の普及・農業機械の改良に努め、地域に普及、生産組織化、共販体制を確立し、切り花生産日本一の産地づくりに貢献した。

- (39) 平成10年度 宮田 光雄 利根郡川場村
リンゴ栽培をはじめ、ブルーベリーの導入を図り、農産物加工グループの育成により、高付加価値農業の実践、都市住民との交流を積極的に促進、消費者との結びつきを深めた。
- (40) 平成11年度 中井 徹 吾妻郡吾妻町
こんにゃくの電熱貯蔵技術開発と異常開葉対策の発見及び普及、あかぎおのだまの早期産地化、補完作物として輪ギク、スプレーギク導入に貢献、全国有数の産地化を実現した。
- (41) 平成12年度 北爪 弘久 勢多郡富士見村
酪農経営で桑の残条残渣の豊富な繊維質に着目し、これをサイレージ飼料の活用を考案、良質生乳生産や乳量の増加安定に努め、地域の酪農振興に尽力するほか、家族経営協定の普及推進も図った。
- (42) 平成13年度 一倉 悦雄 北群馬郡榛東村
ブドウ栽培で観光農業の推進や安定した品質収量を得るため雨除けハウスを導入推進する。さらに早くからブドウの余剰生産物活用に着目し、ブドウ酒製造として高付加価値化を進める。
- (43) 平成14年度 遠間 眞也 安中市
横野平土地改良区理事長として農地の集団化を推進し、コンニャクを主に新しい作目のゴボウの導入を図り、良質作目生産による経営安定を実践し、地域へ普及した。
- (44) 平成15年度 山口 謹次 吾妻郡長野原町
ブルーベリーをコンニャク経営の複合作物として導入、自らの経営基盤を確立し、地域の模範的な経営を実践し、本県の先駆者として苗の増殖普及に尽力し、ブルーベリー産地化の基礎を築いた。
- (45) 平成16年度 矢端 春雄 前橋市
大型機械の導入により農業生産性の向上を図り、農作業の受委託に積極的に取り組み大規模米麦経営を確立し、地域の米麦農家に大きな影響を与え、地域農業の活性化に寄与した。
- (46) 平成17年度 黒岩 安雄 吾妻郡嬭恋村
夏秋キャベツの生産性向上のため斬新的な農業経営を確立し、労力の集中回避、長期出荷を実現させ、その技術と経営手法を産地形成のため広く地域に公開するなど本県農業の振興発展に寄与した。
- (47) 平成18年度 竹内 惣兵衛 利根郡昭和村
こんにゃく栽培法の研究に取り組み、新品種の早期導入と環境に優しい栽培に努め、機械化による大規模農業経営体制を確立させ、地域へ普及した。
- (48) 平成19年度 小池 正義 高崎市
トマトの生産性向上を図るため団地化と集中管理システムの導入に努め、その経営手法を広く公開するなど地域並びに本県農業の発展に寄与した。

- (49) 平成20年度 瀬戸 彰司 太田市
小玉スイカ栽培において、品質確保のための技術の確立と出荷体制づくりに努めるとともに、灌漑排水・圃場整備事業を導入させたことにより、ほうれん草、トマトなどの生産が可能となり、地域の農家所得の向上に寄与した。
- (50) 平成21年度 阿久澤 徳男 前橋市
養豚経営において環境保全に配慮するとともに、低コスト化、高品質豚生産を実現させ、技術普及に努めた。また、県域養豚団体の大同団結に尽力した。
- (51) 平成22年度 森田 倉次 渋川市
標高が高く厳しい気象条件の下で、地域にあった作物導入が常に大きな課題であった。こうした中で酪農を導入し、指導力を発揮し、県内でも屈指の酪農団地造成に尽力した。
- (52) 平成23年度 田村 藤一 吾妻郡中之条町
コンニャク(あかぎおおだま)導入のための栽培管理をはじめ、サツマイモの機械化生産や加工技術の実践的な確立等をとおして、担い手育成につとめるとともに、多年にわたり農業団体の役員として尽力した。
- (53) 平成24年度 遠藤 藤一 館林市
キュウリ栽培の研究を熱心に重ね、竹幌式ビニールハウスによる越冬栽培法をはじめ、ウォーターカーテン・地中熱交換方式 締めづくり技法による高位安定栽培等を考案するとともに、これらの技術を組み合わせた栽培技術体系の確立により邑楽館林地域のキュウリ産地化に貢献した。
- (54) 平成25年度 佐藤 茂 高崎市
ホウレンソウ、レタス、コマツナを主体とした有機農業の栽培技術向上に邁進するとともに、習得した技術や販売体制等を有機野菜栽培をめざす新規参入者に提供し、多くの新規就農者の定着をとおして、倉渕地域の有機野菜の産地化に貢献した。
- (55) 平成26年度 後閑 岩男 高崎市
葉菜類(小カブ、コマツナ、シュンギク)やナスの実とり栽培を通して、施設野菜の有利性を実証するとともに地域での普及拡大に努め、統一された優良ナス苗の生産とJA系統の販路の確立と拡大・拡充を図り、一貫した地域農業の発展に貢献した。
- (56) 平成27年度 峯崎 正春 邑楽郡明和町
鉢物経営における高品質栽培技術の改善に努め、特にシクラメン栽培では、いち早く導入した栄養診断技術により高温条件下での安定栽培を可能とし、全国的に高評価な商品化を実現させ、その技術を広く公開し、シクラメン生産者の技術力の向上に貢献された。

(57) 平成28年度

石山 甚一郎 邑楽郡板倉町

疎植法による「あさひの夢」の栽培をいち早く導入し、育苗費の低コスト化と労働時間の短縮を実現させるとともに、所得維持対策を推進するために麦作組合を結成させ、集団転作の実践をとおり、稲作農家の安定した収入の向上に大きく貢献された。

(58) 平成29年度

吉野 藤彦 利根郡昭和村

乳量の増大と品質の向上等を図るため、フリーストール牛舎やミルクングパーラー等の施設をいち早く導入し、大規模酪農経営の近代化を築き、法人化による雇用条件の改善、土地利用型による飼料の確保と良質な堆厩肥の生産をとおり、酪農経営者の経営感覚の向上に大きく貢献された。

(59) 平成30年度

吉田 辰雄 伊勢崎市

半促成ナスの栽培において、整枝と摘花摘葉を重視した新たな技術と管理方法の創造により 収量の増加とA品率の向上を成功させ これを一早く地域に広く伝授することにより 生産者の安定した収入の確保と半促成ナスの産地化の形成に大きく貢献された。

(60) 令和元年度

黒岩 正善 吾妻郡中之条町

山野草の生産において、施設化と株冷蔵技術の導入による周年出荷を可能にし、二重ハウスと家庭用ストーブでの加温による低コスト化を図り この方法を一早く地域に広く伝授することにより、ブランドとして名高い「六合の花」の産地形成に大きく貢献された。

(61) 令和2年度

森田 富雄 渋川市

しいたけ栽培において、ほだ場の敷き藁方法の工夫や、ほだ木の育成における乾燥具合による種菌の使い分け等を研究し、高度な栽培技術を確立させ、いち早く地域の生産者に広く伝授することにより、しいたけ栽培経営の安定と所得の向上に大きく貢献された。

(62) 令和3年度

松井 富雄 沼田市

りんご栽培において 早くから わい化栽培に取り組み 県育成品種や新たな栽培技術を積極的に導入し 低コスト化を図るとともに高品質で安定した生産を実現するとともに、地域の観光果樹園の形成に尽力し、「ぐんまのりんご」の知名度の向上に大いに貢献された。

(63) 令和4年度

松井 利彦 前橋市

いちご栽培において、普及組織とともに新しい技術に挑戦し、試行錯誤を重ね確立した技術は、他の生産者にも導入され いちご産地の発展へと繋がった。さらに、新たに いちご栽培を志す就農希望者を受け入れ指導し、前橋市を中心に独立をさせるなど担い手の確保・育成にも尽力された。